

平成 23 年度 福工大ビオトープ活動報告

福岡工業大学社会環境学部 坂井宏光

◆ 1 23 年度のビオトープ活動の概略

○平成 23 年度のビオトープ活動

平成 23 年度も昨年同様に、年 8 回のビオトープ勉強会と 4 回の自然観察会を企画実施中です。社会環境学部でのビオトープ活動は今年度、主に、環境基礎演習 I、II での取組で、年間 8 回の勉強会と春、夏、秋、冬の 4 回の自然観察会で地域住民と学生の交流を行っています。

4 月 20 日 ビオトープ勉強会で学生 30 名参加し、里山・ビオトープの自然観察を行った。

4 月 29 日 第 20 回自然観察会を開催し、地域住民 8 名と学生 55 名の参加で、春の里山・ビオトープの自然観察をしました。その後、ヨモギなどを採取し、調理して食べるなどの交流を行いました。

5 月 11 日 勉強会で学生 32 名が参加し、里山周辺でのバードウォッチング & リスニングを行いました。

5 月 21 日 福工大ビオトープ研究会は、昨年度の助成 13 団体の一つとして **エフコープ環境助成活動報告会**（篠栗・エフコープ本部）で「福工大のビオトープ研究調査活動」について 10 分間のプレゼンを行いました。

6 月 8 日 勉強会で学生 31 名が参加し、里山・ビオトープの自然観察を行いました。

6 月 22 日 勉強会で学生 33 名が参加し、和白干潟の自然観察を行った。

6 月 29 日 勉強会で学生 30 名がビオトープ周辺のはみ出た雑草を一部、刈るなどの整備・保全活動を行った。また、ビオトープに関する環境紙芝居の製作を開始しました。

7 月 2 日 第 21 回自然観察会を行いました。里山・ビオトープでのバードウォッチング & リスニングを行いました。参加者は学生 33 名に対し、地域住民の参加は 1 名でした。

8 月 6 日のオープンキャンパスでビオトープ活動紹介とビオトープ環境紙芝居を披露した。概ね好評であった。

9 月 28 日 ビオトープ勉強会で学生 30 名が参加し、ビオトープの周辺観察をしました。

10 月 15 日（土）第 22 回秋の自然観察会を開催した。テーマは「草木染めに挑戦しよう」でした。地域住民 4 人と学生 31 名が参加して、ビオトープ周辺からクサギの実とセイタカアワダチソウを採取し、これを煮出して、各自で白い木綿のハンカチを淡い青色と黄色に染色しました。

12月3日(土)第23回冬の自然観察会を開催した。テーマは「クズの蔦でかご作りをしましょう！」でした。地域住民が6名と学生が26名参加して、ビオトープ周辺からクズの蔦をたくさん採取して、立派な籠を編み上げていました。

◆2 福岡県環境教育学会が8月27日(土)にA棟で開催されました。学会会員、一般、高校生等で約180名の参加がありました。午前中に会員発表18題、ポスターセッション5題、環境教育メッセで企業の展示2社、社会環境学部ビオトープ研究会も環境教育メッセに参加しました。また、A会場での発表で「福工大のビオトープ活動と課題」について報告しました。

午後からシンポジウムで小川 滋先生の基調講演、県内環境NPO法人や学校ビオトープ担当教員の代表4人のパネリストによるパネルディスカッションが活発に行われました。

今回、福岡県立嘉穂総合高校も社会環境学部との高大連携SPPの一環で教員・学生約30名が参加・発表し、学会奨励賞を受賞した。また、学会の法人会員である県立柏陵高校から環境科学コースの約40名の学生が発表参加した。

◆3 平成23年度は人材育成のために初めての試みとして、ビオトープ管理士試験の講習会を3回開催し、8月6日に模擬試験を実施しました。

ビオトープ管理士試験は予定通り、9月25日(日)に本学A25教室でキャンパス受験を実施しました。受験者は19名で、12月17日に試験結果発表があり、ビオトープ管理士2級に3名が施工部門で合格しました。

◆4 隔月で、キャンパスサミット(地域の町内会長、公民館関係者、警察関係者、JR関係者など約40名)に参加し、ビオトープ活動を報告している。その中で、地域住民との交流と地域環境保全の大切さを伝えています。

◆5 全国学校園庭ビオトープコンクール2011に応募していた件では、9月28日(水)13:00~14:30に審査を受けました。審査結果は、12月上旬に発表され、地域とパートナーシップが評価され、見事、上位5賞の一つ「日本生態系協会会長賞」を受賞しました。2012年2月12日に津田ホール(東京)で上位5賞の事例発表と表彰式に参加した。

◆6 自然観察指導員講習会への参加…教員1名が9月30日~10月2日に大阪で開催された日本自然保護協会主催の自然観察指導員講習会に参加した。教職員のFD教育・研修の一環として、毎年、一人ずつ自然観察指導員講習会への参加ができると社会環境学部の教育・研究に少なからず貢献すると考えられます。

以上